

ERCP/EUS手技をアシストする 3D画像解析とXR技術

2026.5.9 (土) 13:20~14:10 (50分間)

第14会場：パシフィコ横浜 会議センター5階 511+512

司会

杉本真樹 (帝京大学冲永総合研究所 Innovation Lab)

演者

「胆膵内視鏡の新時代

Extended Realityが切り拓く次世代胆膵内視鏡」

垣谷有紀 (大阪公立大学 大学院医学研究科 消化器内科)

「MR技術がもたらす胆膵内視鏡の新たな視点

－Holoeyes MDによるERCP・EUSへの応用－

永井一正 (東京医科大学 臨床医学系 消化器内科学分野)

「Holoeyes MDを用いた

ERCP関連手技における事前教育ならびに術中支援」

谷坂優樹 (埼玉医科大学国際医療センター 消化器内科)

セミナー概要

近年、胆膵領域の内視鏡治療は高難度化が進み、術者の空間認識力やデバイス操作の精度が求められています。特にEUS (超音波内視鏡) を用いた手技では、モニター上の断層像から立体的な臓器構造を瞬時にイメージすることが不可欠です。

Holoeyes MD*は、実際の症例データから構築した3Dモデルを用い、胆管・膵管・血管・腫瘍の位置関係を立体的に可視化することで、術者の空間的理解を補助し、手技計画や教育への応用を可能にします。

本セミナーでは、XR (Extended Reality) 技術を活用した新たなERCP/EUS手技アシストの取り組みを紹介するとともに、Holoeyes MDを用いたXR環境への展開についても具体的な事例を交えて解説します。

また、セミナー後半では、胆膵内視鏡治療における「見る」「理解する」「伝える」の新たなアプローチをご体験いただけるハンズオン(事前申し込み制・定員25名)を実施します。

研修医の修練から上級医の指導まで、明日から臨床で活用するための実践的なセミナーです。

ハンズオンのお申し込みは、右記QRコードの専用フォームで受け付けています。

皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

*医療機器に関する情報

販売名：医療用画像処理ソフトウェア Holoeyes MD、一般的名称：汎用画像診断装置ワークステーション用プログラム、クラスII (管理医療機器)、認証番号：302ADBZX00011000、認証日：令和2年2月28日

